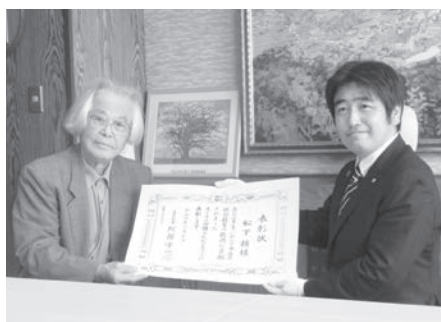




館報 まつかわ

松川町公民館報
第704号
令和4年7月15日

町の川 ④③ 南沢川



6月3日 役場にて県からの表彰受賞

松下 拡先生(元公民館主事・社会教育主事)

社会教育の振興に貢献され 県より教育功労者表彰受賞

松下 拡先生の経歴

◆昭和35年4月から昭和60年3月までの25年間松川町公民館主事・社会教育主事として活躍。その間社会教育の推進、婦人学習、健康学習、福祉を考える学習などの礎を築かれました。特に健康学習は全国的に注目された実践となりました。

◆昭和63年4月から平成26年3月までの26年間大学非常勤講師・また講師として実践的な講演を通じて全国各地の保健師養成教育に貢献をされました。

松下拡さんの自宅に6月2日にお伺いしお話を聞きしました。

現在お年は91歳を迎え歩行時には両杖を突いての様子ですが、話をされる姿はとてもお歳とは思えないしつかりとした言葉で当時の様子を熱く話して下さいました。

Ⅱまず公民館主事になるきっかけについてⅡ

*生田東小学校の教員をやっていた。家は農業だから跡継ぎをしなきゃならん時代だったからやめてから農業をやっていた。生田青年学級の講師にならんかと声がかかり、夜ならいいだろうということ、で青年学級との関係が生まれて、夜集まって学習会をした。いろいろな問題を話し合っているがその講師をずうっとやっていて、社会教育に関心があるようだから町の公民館主事をやらんかと声があつて公民館主事になった。



6月2日 ご自宅で

Ⅱ主事になられた頃の公民館活動の状況などについてⅡ

*あの頃は行事が中心だったね。運動はとにかく盛んで特に野球が盛んでねえー、そういう事務局を多くやっていたのが当時の公民館。

*生活改善運動というのが昔からあつて段々世の中が動いていく、その中で実際の生活はどうあつたら良いか日本中の大きな課題だった。嫁姑の問題、家族のあり方、じいちゃんばあちゃんとの関係、そんな中で子どもをどうやって育てていくか、幼児教育、家庭教育など問題が発展してきた。

日常生活で困っていることを自由に話し合う、そうするには少し固定的、継続的にやっていくにはメンバーを据えていかないとだめだなーといろいろなグループが出来てくるんです。そういう住民の生活の思いや状態を出し合

い住民と一緒に取り組んで行くのが公民館本来の役割である。その中心的役割を果たすのが公民館主事である。

その原理は今だってそうだよ！

*地域の社会教育活動、自由な生活の中での学び、そこを深め継続していく役割として公民館発足の趣旨だった。なかなかそうはいってもうまくその通りに行かないの、昔からそうであつたわけじゃーないから、公民館というのは町長や議会の言うとおりに動いておりゃあいいというふうだったから、それはおかしいぞとみんなで話し合い、専門の部を作ろうということ、で、社会部・体育部・それらを発信していく編集部のこの3つの部を中心に考えようとした。

・自由にみんなが問題や課題を出し合えるように掘り起こし支え継続していく 社会部

・体育活動はみんな盛んであつたからねえー、ほおつておいても動いているから連絡係や場を考える 体育部
・それらを発信していく 編集部
最初は部員がそれぞれに15

人くらいおつたかなあー。その他に自主グループとして若妻会、婦人会、青年会、壮年会もあつたねー。住民の日常の組織活動が地域にあつてそれはそれとして独自性をもって大事にしてそれを町中に広げて行く。公民館は住民が主体だから自分達の活動と位置づけて、10年20年と取り組んできた。おおよっぱに言えばそんなことなんです。徹底的に地域に向いた。

Ⅱ公民館研究集会・健康を考える集会・福祉を考える集会を立ち上げてこられた事についてⅡ

*それぞれの日常の課題を集めてきて活動していく、みんなで話し合っていくと、子どもや、健康、高齢の課題などいろいろな課題が出てくる。その課題を深めていくには課題別に話し合う場を作ろうじゃないかと、そうゆうふうになつて集会が出来てきた。

Ⅱ退職後大学の講師や各地に出向き活躍されていました
がⅡ

*別にとりたつてどうちゆうことはない。北海道から沖縄までほうぼう歩いた。俺は実

実践者だから松川の社会教育はこうゆうふうをやってきた、そこから理論的に何が言えるか。それを中心に一週間くらい集中的に講義をやった。具体的に取り組んだのは一番身近な健康問題が多かったかねー。

Ⅱ 佐久に引越されるとの事です、今後の公民館活動によせる思いがありましたらⅡ

*今まで話したことがすべてだが！

*昔は何かと話し合ったが、今話し合いが出来んねー。私はこう思います結論はこうです、それで終わりじゃあねえかーそんなこんな人間関係はできん。公民館で一番大事なのは人間関係を作る、まず話し合う事、自由に話し合う事でそれぞれの思いが見えてくる。

話し合いをせずして地域の課題は見えてこない。

今回のお話を聞き、当時と時代は変わってきていますが改めて公民館としての役割、あり方を再認識する機会となりました。

共に学んだ仲間たちより

先生の教えのおかげで今がある

松下先生の教育功労者表彰、誠にありがとうございます。先生が表彰伝達式で語られた言葉は私が保健師として松川町で働いた23年間、一貫して教えを受けたことです。『方法を押しかけるのではなく一人一人の住民を主人公に、考え方、進め方を支援する事が本来目的とすべき社会教育の姿。少しでも実践できるように心掛けてきた』このことを毎月開かれていた「健康研究会」で徹底的に教え込まれました。この会は先生・保健師3人・林栄養士の構成で仕事の中でそれぞれ

が抱える課題を出し合い、又共通課題を研究し、休むことなく続けられました。これは何物にも代えがたい幸運で、当時も今も「日本一の職場」で働いたのだと勝手に自負しております。

既成概念でゴリゴリに固まった脳はそうそう簡単に解かれるものではなく、なかなか実践できませんでした。住民の皆様との健康学習は何回レポートしたことだろう。同じような失敗を幾度となく繰り返し、当時の胸中を吐露すれば「こんなに分からなくて住民の皆様は迷惑をかけるばかり、保健師失格」と思いつめた事も幾たびか。

「健康研究会」で指導され

原田 何原 弓絃

「あんじゃねえ」のオマジナイ

若妻会の中から松下先生をお願いしてお話をしている中から堤原の歴史を知ろうという事で読書会という会が出来ました。その後果樹園の消毒にスピードスプレーヤーが割合早くから使うようになって、農薬が付いた服を着ておつてもかまわないし、マスクもしないが大丈夫かと気になっていました。防護服を着たりマスクをした方がいいん

じゃないかなと熊谷保健婦さんが入ってくれて学習会をはじめました。「堤原健康を考える会」は昭和50年から活動してきました。堤原は果樹農家が多く、同じような環境の中で生活している人たちと、子育てのこと、農作業のことなどその時みんなが気になったことが共通の話題となり松下先生を交えて皆で楽しく取り組んできました。先生は私たちの話をよく聞いてくれた。「あんじゃねえ、それ

る先生は「そう簡単に出来る事ではない。既成概念で凝り固まった脳は住民の皆様が発する言葉をどれだけ素直に聞けるかにかかっている」と繰り返し、辛抱強く指導して下さいました。

先生も語っておられるように健康学習を通して、住民の皆様に沢山の事を教えて頂きました。拙い健康学習名ばかりの保健指導の場で文句も言わずに導いて頂いたおかげでここまで来ることができました。松下先生への御礼と共に、この場をお借りして、松川町の住民の皆様は厚く御礼を申し上げます。お世話様になりました。

りやあこういうふうにしたらどうずら」と言う感じで、困った時も、うれしい事があっても先生に相談してやってきました。

今はその仲間たちとサロンをして楽しんでます。地域的につながりが根づいてきたのも先生のおかげだと思っています。

先生の「あんじゃねえ」のオマジナイで頑張っています。

堤原 細江

松下先生県知事表彰 おめでとうございます

私が社会人になって約半世紀、青年団、若妻会、親子会、婦人会、健康・福祉のそれぞれの集会和、多方面にわたり先生からご指導頂きました。同時に保健師の熊谷さん、何原さん、代田さん、そして栄養士の林さんともつながりができて、社会活動においての仲間づくりや学習会の大切さも教えていただきました。コロナ禍前までは公民館だけでなく先生のお宅にもおじゃまして、仲間とおしゃべりや勉強会にも参加させてもらっていました。

また先生は絵を描かれるので、幼い娘を膝に乗せて若妻会の学習会に参加していた様子を、ボールペンでデッサンして下さったこともありました。先生の油絵は風景画や山が多く、町内から見える山もたくさんありましたが、作品No.122『妙高』が私の宝物です。

今先生の住んでおられる所からはどんな景色が見えているのでしょうか？

原 節子

..... 公園集落

アルプスビューファームズ部奈

をめざして

部奈地区

里山整備利用推進協議会

委員長 北林 基

部奈は周囲を山林に囲まれた高台にある約80戸程の小さな集落です。その一方アルプスを望む景観に優れ豊かな自然が残っています。

この集落を将来にわたって魅力あるものにするため、「部奈に遊びに行きたい」と言ってもらえる集落づくりをコンセプトとし、「部奈を公園集落にする」活動を平成13年から始めております。その後、平成19年に長野県の第一号と

して里山整備利用推進地区に認定されたのを機に部奈の各団体を含む協議会が設立され今日に至っております。

その間、国、県、町などのご支援をいただきながら多くの事業をさせていただいております。主なものは集落周辺の里山整備、竹林整備、公園整備、イベントの開催などです。元気な森づくり大賞の受賞、信州ふるさとに見える丘の指定などもいただいております。



地域を知る講座「部奈の台地をめぐる」



シラネアオイの花



イカリ草

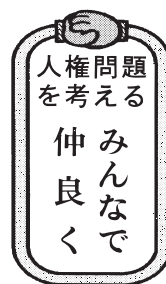
昨年は里山整備、保育園の山保育、部奈の成り立ちを知るための地質調査を行いました。

今回、公民館の地域を知る講座に取り上げていただき多くの方に部奈を知っていただき



解説する北林さん

けたことに感謝いたしております。これからもさらに多くの人々が部奈に遊びに来ていただけることをお待ちしております。



松川中学校

1年道徳「養生訓」より

■教材の内容

江戸時代の本草学者、貝原益軒の教訓書である「養生訓」の一部を漫画にした教材です。「養生訓」は、生活するうえで、精神・肉体の衛生を保つための心得が著されています。

■今回の道徳の授業で考えたこと

「養生訓」を取り上げた漫画を通して、健やかな体を養うために節度や節制のある生活を送ることの大切さを考えました。

■生徒の様子

入学して2カ月が経ち、開放感や自分で選択できる自由な時間が増えることで、これまで身につけてきた基本的な生活習慣を軽んじたり、周囲に対して反発を示したりすることもある時期です。今回の授業で、健康な生活を送るためには、体と心の両方の健康が大切であることに気づくよい機会となりました。

■生徒の学習カードより

【自分の養生訓を作ってみました】

欲をこらえるために

・欲を抑えられなかった時のデメリットを考える

例) テスト前にゲームをや

り続けているのか？

・ゲームやスマホに触る時間を制限する(やり過ぎない)、自

分の中でルールを決めておく

・メリハリをつけて行動

心を元気にするには

・掃除をする、好きなことをやる、音楽を聴く、お日様を浴

びる

・ストレスをためない、イライラしたときは深呼吸、物事を

ポジティブに考える

・悩みや不安がある時は親や先生、信頼できる人に話す

【健康な生活を送るために大切なことは？】

・生活リズムを整える、規則正しい生活(早寝早起き)を心がける

・欲をこらえる

・気持ちよく寝る、適度な運動、バランスの良い食事

・体の健康だけでなく、心の健康についても考える

松川町今昔

資料館だより

◆第70回◆

「江戸時代の大島三か村の申し合わせ」(その3)

万延元年(1865)正月

に三か村(上新井村・名子村・古町村)で儉約を申し合わせました。この申し合わせは、それまでの約束を再確認したものでした。ほとんどは領主からの御触れに基づいて、三か村で相談して決めたものでした。領主側は出費が家や村の維持や納税に影響を及ぼすと考え、質素な生活をさせて、体制維持をしようとして、考えていました。江戸時代が下るにしたがつて商品経済が浸透して商品やお金がかかり出回り、人々の生活や考えを変えていきました。申し合わせられた約束はすべて守られたというわけではありませんでした。万延元年の申し合わせは項目が大変多く、三十九項

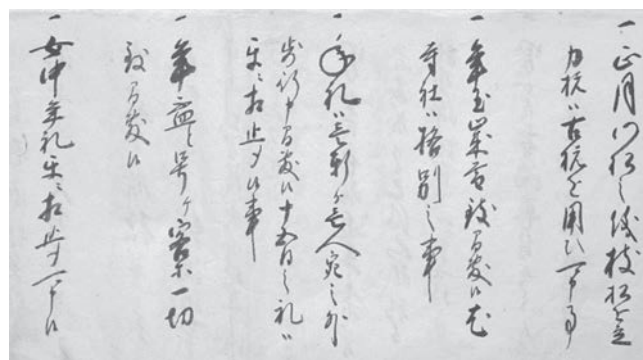
目もありました。

最初の正月の過ごし方や休日について書かれた項目のいくつかを紹介します。

正月の門松は枝松を立てるようにすること、年玉・歳暮は出してはいけないが寺社へ出すのは特別である、年礼に出る行くのは一軒で一人とすること小正月の年礼は互いにやめること、客等と呼んで酒を飲んだりしない、女同志の年礼はお互いにやめることなど正月の過ごし方についてあげられています。互いに交流することにより、品物やお金を用意するなど、支出することが重なるので、減らそうとしていることがわかります。

そして決められている定日の休みのほかに、新たに休日をお願いすることははいけないと決めています。また他の季節の見舞いなどはしないこと、ただし病氣見舞いや災害見舞に行くときは、弁当は

自分で持つて行くようにすることと決め、先方に負担をさせないようにと決め



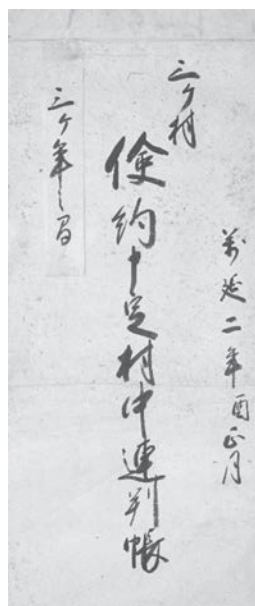
ています。

当時現在のように様々な見舞があつたと思いますが、できる限り減らして負担を少なくしようとしています。続いて衣服などについてもいくつか決めています。衣服も派手になつてきているので、木綿の地にすること、女子の髪飾りなど目立つようなことは決してしないこと、男女ともに雪踏みの裏付け草履や下駄は一切はかないことなどというようなことを決めていきます。

松川町資料館

伊坪 達郎

(続く)



令和4年度 まつかわ大学 第17期 第1講座 6月4日

…夢をあきらめないで…

今回のまつかわ大学は岡谷市出身の自転車冒険家 小口 良平さんに
お越しいただきました。小口さんは日本1年、世界7年半自転車に乗っ
て157か国を旅し、現在はサイクルアドバイザーとして活躍されています。

小口さんの自転車との出会いは8歳のときにお兄さんと自転車で諏訪
湖を一周したことです。当時の小口さんにとって初めての冒険でした。

学生時代は夢もなく自分に自信も持てず、自己嫌悪の塊だった小口さ
んでしたが、チベットへの旅行で日本とは違う、多種多様な人々とその
生き方に刺激を受けました。旅ではラマの僧が目的地を目指して、五体
投地というお祈りをしているところにも遭遇。額に傷ができるぐらいお
祈りをして、額の傷こそがラマの僧の誇りであり、「他人にとったら意
味のないことだが、自分にはすごい意味がある行動。」だということを
教えてくれました。

日本から出て初めて気づいた多様性、ラマの僧から「生涯のある時期
は、自分のために生きていい」ということを感じ小口さんは自転車地球
一周の夢を持ちました。



親に反対されながらも、就職してからは夢の
ために1日2食の節約生活を5年続けて旅の資
金を貯めました。

世界の旅は7割がテントでのキャンプ生活。
たくさん国を自転車で駆け回った小口さんのお話
は本当に興味深いものばかりでした。この
旅で感じたのは外国の人は日本に対して「人が
安全安心な国」という無形ブランドをもってい

るということでした。「日本人だから」とい
うだけで家に入れてくれ、おもてなしをし
てくれる国もありました。世界の大自然や
様々な動物とも出会い、日本にいてはでき
ない素晴らしい経験もたくさんしました。

しかし、世界旅行にはトラブルも多々あ
り、食中毒、デング熱、マラリアなどに
かかり倒れたこともあったそうです。カンボ
ジアでは現地の通貨が切れてしまい、川を渡るお金もなく、ひとまずキャ
ンプしようとしても、地域の人たちに追い払われて寝るところもない日
もありました。そんなときもある人が手を差し伸べてくれて、家に泊め
させてくれました。次の日の朝も朝食を食べさせてくれて、旅だつとき
にはお金を渡してくれたそうです。小さい子供もいる家族だったのに
応援してくれて「君がきてくれたから家族みんなが笑顔になった。」その
感謝の証だと無償の愛をくれました。

「困ったときはいつも誰かが助けてくれて、そこから出会いがうまれ
る。応援してくれる。トラブルは次の出会いを生む。」といきいきと語っ
てくださいました。「8年間自転車の旅を続けてこれたのは人との出会
いがあったから。」夢を発信することで出会えた人たち、旅で出会った
人たちは小口さんにとっての“財産”です。

小口さんの次の夢は南極大陸を走り、さらには月への自転車旅です。
常にチャレンジャーであり続ける小口さん。私もこの夢をすぐ応援し
たくなりました。



ワールド愛・日本語教室 in 松川町

日本語を学ぶ・教える

いっしょに文化・習慣を学びあう、

メンバー募集

募集対象

- 日本語を学びたい方
 - 教えたい方
 - 外国の文化、国際交流に興味がある方
 - 国籍、経験、年齢不問
- ◆日 時：第1・第3 土曜日
19:00～20:30
- ◆場 所：中央公民館
- ◆申込先：吉川 0265-48-6929

国際交流する

情報

人形劇がやってくる!
2022/8/7 (日)

くりきんとん
Puppet Theater Kurikinton

出演
人形劇団くりきんとん

場所
松川北小学校体育館
(長野県下伊那郡松川町上片桐 2950)

開場 12:40
開演 13:00～

入場無料!

※お問合わせ先
松川町中央公民館
(36-2622)

共催/上片桐地区公民館



◆日時…8月21日(日)

- 小中学生は保護者同伴で参加ください。
 - 参加無料!!
 - 申し込みが必要です。
- 詳しくは中央公民館まで (36-2622)



地域を知る
講座

武田信玄狼煙上げ

根羽村からリレー方式で行います。

戦国時代の一コマを
一緒に体験しましょう!

◆日時：8月27日(土)

小雨決行

午前9時 狼煙準備

◆場所：台城本丸跡





松川町と一緒に楽しく 生涯学習課長 高根竜二さん



今年度から生涯学習課長を務められている高根竜二さん、もともとは長野県の行政職員で松川町との交流派遣として勤務されています。以前は飯田合同庁舎、長野県庁、高等学校の事務職員など様々な部署を経験されています。

県庁在任時には広報担当として広報番組の制作や、行幸啓の際に宮内庁記者会の対応をされたそうです。

町役場への配属は初めてで不安もありますが、いろいろな職場を経験できることは幸せに思うとお話してくださいました。

今まで成功したことも、失敗したこともあります。まずはやってみる、仕事を先延ばしにしないなど仕事に対する心掛けをお話してくださいました。

休日は地元の飯田市内で小中学生へ剣道の指導をされているそうです。ご自身も小学生から高校生まで剣道をされていたとのこと、お子さんの部活動を機に再開されたそうです。

今年度の成人式は、昨年度新型コロナウイルスの感染拡大により延期となっていた令和3年度成人式を8月14日(日)に、令和4年度成人式を8月15日(月)に実施いたします。

4月1日に改正民法が施行され、成年年齢が18歳に引き下げられました。松川町では今後も引き続き20～21歳を対象に式典を実施いたします。

式典の名称については、実行委員会を中心に検討し、今年度の成人式は、昨年度新型コロナウイルスの感染拡大により延期となっていた令和3年度成人式を8月14日(日)に、令和4年度成人式を8月15日(月)に実施いたします。

すぽと

今年の成人式について

が行われ、コロナ禍における式の実施方法などが協議されました。会議開催時の南信州圏域の感染警戒レベルは1でしたが、今後の感染状況の予測がつかないことなどから、

例年実施されていた立食パーティの取りやめや、抗原検査キットの配布等を行うことが決定されました。

多くの人に安心して参加してもらえようと、実行委員の皆さんもとても頭を悩ませていました。

昭和のスナッフ写真から (水遊び)



昭和15年当時片桐松川で水遊びをする光景です。ふんどし姿で、魚(カジカ)とりや深い淵に飛び込んだりと川ならではの遊びを満喫し、冷えた体を石の上で「甲羅干し」河原の「スイコンボ」をかじった思い出がよみがえります。



松川中央小学校

きょう、体いくのマットのじゅぎょうで、うしろでんぐりがえしもせいこうして、ふつうのでんぐりがえしもせいこうして、カンガルもやって、楽しんで、マットのときいきがー歩上になりました。いっはいわさをやりたいです。(2年)

きょう、三じかんめの体いくで、だるまさんがむすかしがたけど、そのほかのうしろのでんぐりがえしやまへのでんぐりがえしとかはできませんでした。あとは、だるまさんです。次の体いくのときがマットだったらできるようにさせたいです。(2年)

きょう、みんなで音がくべんきょうをしました。すこくた

のしかつたです。どうしてかという、体をつかつたリズムあそびをしたからです。ちよつとむすかしがたけどすこくたのしかつたです。(2年)

今日は、クリーンセンターに行きました。ごみビットのウレシノの大きさにびっくりしました。ごみを一回に、たくさんもやします。ずっと見ていたいと思います。(ごみビットを動かす人がかっこいい) 私もごみビットをそうじゅうしてみたいです。すこく楽しい見学でした。(4年)

昨日は寒くて長そでを着ていたのに、今日は暑くて「ガリガリ君」が食べたくなって、3時のおやつに食べました。味は「メロンソーダ」です。おいしかったです。まだ食べたいです。(4年)

声楽しい芸能



6月18日、中央公民館えみりあホールにて「楽しい芸能」が開催されました。発表の様子を紹介します。

おいなんよ松川 台城今昔物語 紙芝居

おいなんよ松川の皆さんは、地域案内人として、松川町の文化や歴史、観光などの魅力を発信されています。

今回の台城にまつわる紙芝居は、例年台城で歴史などを伝える活動を行っていましたが、昨今のコロナ禍の影響で案内活動が減少したため、新たな方法で台城の歴史を伝えることができればという思いで制作されました。

紙芝居の演目は「台城今昔物語」「大蛇が城と金のにわ



とり」の2部あります。「台城今昔物語」は築城から約450年の歴史、「大蛇が城と金のにわとり」では、台城を敵の攻撃から守った大蛇、台城のお姫様と金のにわとり

にまつわる伝説が紹介されています。紙芝居の絵は明るく、語り手の方は登場人物になりました。紙芝居となりました。紙芝居の最後には、台城の歌も披露されました。

上演後、おいなんよ松川の皆さんは、「昨年11月に小学生に初めて披露して以来、発表の機会がなかった。こうやって一般の方を前に上演するのは初めてで、緊張したところもあったけれど、これからも発表の機会を重ねて、上達していきたい。また、制作にお力添えをいただいた古町のみなさんに早く披露したい。」と仰っていました。

笑緑亭一門の小学生

松川中央小の落語クラブに所属する3名、師匠の笑緑亭団泥のもと練習した落語を観客

の前で初めて披露されました。

3名はそれぞれ、笑緑亭心団寿、笑緑亭安反団、笑緑亭妹安反団と師匠の亭号を持ち、芸名が命名されています。

披露された小学生からは、「緊張するかと思ったけど、みんなが笑ってくれてうれしかった」「楽しくできた」と感想を聞かせてくださいました。今後は各1人演目を決めて練習されるそうで、それぞれの発表が期待されます。

楽しい芸能



笑緑亭団泥 落語「死神」

近頃世間で話題となった、「お金」にまつわるものの、身近に感じる話題から演舞が始まりました。

金もなく自ら命を絶とうとしていた男が「死神」に金儲けの話をされ、医者を始めました。しかし、男は死神界の



申し合わせを破ってしまいました。終いには、怒った死神の罠にはめられ、自ら人生に幕を閉じてしまうという演目でした。

ユーモア溢れる語り方、話の落ちに、観客からは歓声が沸き上がりました。

演じた笑緑亭団泥さんから「聴いていただけるみなさんと一緒に落語を楽しめれば」と今後の落語人生の抱負を語っていただきました。



2022年

「あれっ?!なんか変だ?」
ある日、車のハンドルが強くて、とても足に力が入らず、特にひざ下がひどかった。

4・5日続いた下痢が良くなったので病院へ行くことと予約してあったため主人の運転で行き受診。栄養のある食べ物で回復するだろうという診断をされたのですが、それどころか日を追って悪くなるばかり。一週間で自力で起き上がることが出来なくなり、通院も車イスを使用し、主人は付切りでした。どうすれば、というときに脳神経内科を受診しそのまま緊急入院!!この年齢まで、何日も点滴につながれる事が無く過ごした私は、本当にまな板の鯉気分!!「病名確定まで待てないので暫定で点滴治療を開始します」ということで始まった5日後。歩行器を使っていますが、何とかヨチヨチ歩けるようになり、先日1ヶ月少しの入院生活を終えました。

（ギランバレー症候群）
日常生活で耳にした事の無い病名。今はネットで全て分かる時代で、衰えた筋力が元に戻るまでの長い生活が先にみえています。せっかちな私にとってユックリ進むのは苦手な事。でも明るい未来のため勇気をもって挑戦していきます。

宮下 和子

公民館報

「まつかわ」

第704号

令和4年7月15日

発行所 松川町公民館

責任者 山崎 隆

編集人 公民館編集部

Tel 36-2622

e-mail: c.kouminkan@town.matsukawa.lg.jp

飯田市上郷黒田121

印刷所 龍共印刷株式会社

再生紙を使用しています。